



すぎなみ

教育報

第188号
 平成20年3月10日
 発行 杉並区教育委員会
 杉並区阿佐谷南1-15-1
 ☎3312-2111 FAX 5307-0692
 教育委員会ホームページ
<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>
 区公式ホームページ
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



4月からよろしくね。天沼小学校の開校です。

杉並区立天沼小学校校章

公募作品をもとに、統合協議会ですとまとめた校章です。2つの学校から生まれたことを二本の輪で表現し、枝葉は杉五、若葉は若杉の校章からとり、歴史と伝統を表しています。



向かい合った杉並第五小学校と若杉小学校の子どもたち。4月からは、新しく開校する天沼小学校で、一緒に学び、遊ぶことになります。子どもたちは杉五、若杉それぞれの開校式を終え、天沼小学校の開校に向けての準備を進めています。

今頃はきっと、天沼小学校の校歌の練習をしているにちがいありません。校歌は杉並在住の詩人、谷川俊太郎さんと音楽家の谷川賢作さんが心を込めて作ってくれたもの。子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々も集うコミュニティの中心として、「共生」を理念とする天沼小学校が目指す児童・学校像を高らかに歌い上げます。

杉並区立天沼小学校校歌

作詞 谷川 俊太郎
 作曲 谷川 賢作

晴れた日に考える
 青空みつめどこまでも
 答えもとめて問いかける
 世界は不思議でいっぱい



校章の公募で子どもたちから送られてきた作品の一つを、「コミュニケーションマーク」として採用することになりました。学校行事などのいろいろな場面で活用されます。天沼小学校が元気に「はじける感じ」が表現されています。

雨の日もたくましく
 杉の木みたいにまっすぐに
 心とからだのびのびと
 今日から明日へと学ぶ日々

「3つのH」

探究心が旺盛で、自分の周囲や世界をしっかりと見つめ思いやりながら、夢に向かって着実に歩いていく天沼小学校の子どもたち。それを実現するために、教育目標を「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」としました。国際交流も盛んに行っていく天沼小学校では、これらを英語にした「Head」「Heart」「Health」の頭文字をとって「3つのH」と呼んでいます。

曇る日は思いやる
 苦しんでいる子どもを
 いつもどこかで見つめてる
 よりよい世界は夢じゃない

「どきどき」から「にっこり」へ

他校の子どもたちとの出会いはやはり緊張するもの。両校では、二年間、時間をかけて子どもたちが慣れ、仲良くなれるよう、様々な交流の場を用意してきました。授業や、遠足・移動教室などの学校行事、両校で盛んな百人一首の練習など、単に2校で行うというだけでなく、両校の子どもがお互いに話などが出来るように、グループ分けなどにも工夫を凝らしています。回を重ねるにつれ、少し固かった表情は次第に笑顔に変わり、お別れの時には名残惜しそうに「またね!」と手を振り合います。4月からはみんなが天沼小学校の子どもたち。一緒に登校。一緒に勉強。一緒に運動。杉五・若杉の隔てなく、みんなが友達です。



統合協議会を終えて

杉五・若杉の歴史や、それぞれの地域の人たちとの深いつながりを絶やさず、どうやって新しい学校を作っていくか。この課題に取り組んできた杉五・若杉統合協議会。学校や保護者・地域の方々からなる協議会の最終回(第21回)では、委員の皆さんが2年間に渡る活動を振り返りました。

- ・協議会委員の皆が、区で初めての統合新校を、素晴らしい学校となるよう全力を尽くしてきた。
- ・両校の子どもたちが天沼小の開校をとっても楽しみにしている。その期待に応えるような「一番」の学校を作っていくという思いで活動してきた。
- ・最終回を迎えた今、(統合新校の)一校目としての誇りを持っている。絶対に良い学校になると確信している。
- ・今後も関係者が一体となって新しい学校づくりに取り組んでいきたい。

校名の検討に始まり、校章やコミュニケーションマークの決定、教育目標、校歌、新校舎の検討など、統合協議会の成果は多岐にわたりますが、その一つひとつに4月から天沼小に通う子どもたちの、そして地域への強い思いが込められているのです。

▶ **平成20年度就学援助のお知らせ** 経済的理由で子どもに義務教育を受けさせることが困難と認められる保護者に、学校で必要な経費の一部を援助します。
対象 杉並区内在住で、国公立の小・中学校に通う児童・生徒の保護者のうち、次のいずれかに該当する方 ①生活保護を受けている ②平成19年度中に生活保護が停止・廃止になった ③同一生計を営む世帯全員の平成19年中の総所得金額の合計が、生活保護基準額の1.2倍以下の世帯(夫婦と子ども2人の世帯の目安は400万円程度) **お申し込み** 4月以降に区立小・中学校と学務課就学奨励係で申請書を配布します。区立小・中学校の通学者は在学学校、区外の学校の通学者は就学奨励係へ申請書を提出してください。 **お問い合わせ** 学務課就学奨励係

スタート！ 学校支援本部勉強会

地域と学校を結び架け橋となるのが学校支援本部だというけれど、どのような順序で、手続きで行っていかればいいのか。学校にとって何が「支援」なのか。

設立や支援に関する悩み・迷いは、学校支援本部の既設置・未設置を問わず、学校・地域の数だけあるはず。

その悩みや迷い、支援への躊躇などをできるだけ軽減し、また、他の学校・地域の方々とそれらを共有して出来るだけ気持ちの面で負担を軽くしてもらおうと、教育委員会と、NPO法人スクールアドバイスネットワーク(S.A.Net)の共同で、「あなたも学校支援本部の担い手に」と題した勉強会が開かれました。

勉強会は、三谷小学校学校運営協議会委員長の中竹竜二さんによる、皆で考え発表する、聞いているだけではない出席者参加型の講演などが行われたのち、既設置校・未設置校と分かれてのものとなりました。

多くが保護者や地域の方々である参加者の皆さんにとっては、やはり地域の側から見て「どうやって学校に入っていくか」を、学校教育コーディネーター等の経験から、説得力のあるパワフルな話し方で説明してくれたS.A.Netの生重幸恵理事長の話が印象に残ったようです。理事長は、大事なのは「(学校との)対話力・コミュニケーション

力」であると訴え、「学校支援本部が先生方の味方である」ことをアピールしていくことや、「先生と無駄話ができる関係を築いていくことが(学校からの)要望をうまく引き出す」秘訣であることを教えてくれました。そして、「学校

を活性化することは地域社会を活性化すること」である、まだ確固たるマニュアルなど存在しない学校支援本部において「皆さんの経験がこれからのルール作りとなる」と話し、参加者の皆さんを勇気付けました。

ワークショップでは、「学校が必要としているのではないか」と思われることを皆でメモ用紙に書いて張り出し、各グループで発表。「保健室を手伝う」「家庭科授業の手伝い」「犬をみんなで飼う」など、自由な発想で「支援」を思い描きます。一方で、既設置校の取組みなどいいものは取り入れていこうという意見も出されました。

張り出されたメモ用紙のひとつひとつが、「支援」のアイディアの源泉として、今後、各学校・地域で活かされていくことでしょう。今回の勉強会ではアイディアの実現化の手法などには触れることができませんでしたが、勉強会はこれからも継続して行っていく予定です。

今回は、同じ悩みや不安を抱える他の学校・地域の人たちと話をすることができ、横のつながりができたことが、参加した皆さんの何よりの収穫となったようです。



「支援」が書き込まれていきます。

では、一足先にスタートを切っている学校・地域ではどのような「支援」が行われているのでしょうか。平成19年4月に学校支援本部を設立した杉並第一小学校にお邪魔しました。

学校支援本部見学その1 杉並第一小学校



「うちの子ったら、『あのね、今日は何で遅れて来たかって言うとな〜』って訳を話してくれるのよ。」朝学習の時間が終わり、控室に戻った朝先生の皆さんの会話は「うちのクラスの子」自慢に終始します。クラス担当制をとっており、週3回子どもたちが顔を合わせる朝先生はいつも同じだから、子どもたちも慣れやすく、朝先生も「わがクラス」と愛着が湧きます。

朝、授業の準備に追われる学校の先生に代わり、地域の方々が計算チャレンジなどの朝学習を見守るというのが杉プラン(学校支援本部)の取組み「朝先生」の役割ですが、「地域のおじさん・おばさん」が一人いてくれることで、子どもたちも安心して学習に取り組めるようになっています。朝先生も子どもたちにもっと信頼されようと、子どもの頃を思い出しつつ勉強をしていて、各クラスがさながら生涯学習の場ともなっています。



今日は百人一首。ほしの朝先生が読んでくれます。

朝学習の時間が終わる頃には、担任の先生が脇に控えており、朝先生からバトンタッチ。朝先生がクラスを落ち着かせてくれているので、担任の先生たちもスムーズに授業に入ることができます。子どもたちの朝の様子分かる朝先生の日報を担当の先生が目を通し、それを授業に役立てています。



給食と午後の授業が終わると、低学年の子どもたちは、**すぎっ子くらぶ**の受付がある視聴覚室で宿題をやりながら、高学年の子どもたちが授業を終えて、一緒に遊んでくれるのを楽しみに待ちます。杉プランが取り組む放課後の子どもの居場所活動「すぎっ子くらぶ」は、登録制ですが、誰でも入会可能。帰るまでの間、グラウンドで遊ぶのも、勉強するのも自由です。その傍で、子どもたちに干渉しすぎることなく、温かい目で見守り、時に一緒に遊んでいるのは、地域の人たちです。

一方、教室から英会話の声が聞こえてくるのは、5、6年生が「**中学生になってこまらない英語教室**」を受けているからです。昨年12月から放課後、中学校の英語を少し早めにやってみることで、中学校進学への不安を少しでも取り除こうという試みですが、こちらでも教えているのはやはり英語の得意な地域の方々なのです。



すぎっ子くらぶで宿題中。



みんなで輪になって Feel it and Say it!



放課後の体育館は、普段はすぎっ子くらぶの遊び場ですが、今日は、この4月に入学する子どもたちとその保護者を対象とした「**体づくりキャラバン**」が行われていました。杉並第一小学校の魅力を知ってもらうと同時に、理屈抜きに「体を動かすことは楽しい！」ことを親子に体感してもらう杉プランの活動です。



「さよなら。明日も元気に来ようね。」子どもたちがあらかじめ決められた時間に帰っていきます。最後の一人が帰宅すると杉プランの一日の活動もそろそろ終わりに近づきます。



見学のまとめ

杉プランでは、学校の一日を「子どもたちの一日」ととらえ、朝学校に来て、夕方帰るまでの間で、学校だけではなかなか取り組むことが出来なかった部分に地域の力を投入します。それらが一日の中で学校の教育活動と効果的に連携・融合しているのが杉並第一小学校の特徴です。

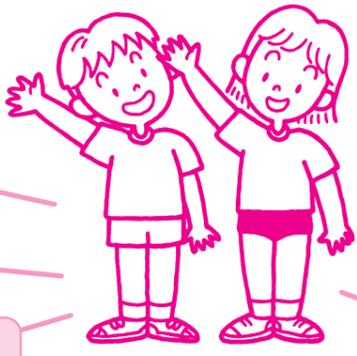
地域の方々が学校のために何かをするだけではなく、地域の方々が学校(子どもたち)から得るものもあります。それは生きがいであったり、学習への意欲であったりと様々ですが、「(学校と地域が)お互いに与え与えられること、それが本当の地域と学校の関係ではないでしょうか」学校支援本部の全ての活動と杉並第一小学校の子どもたちを優しく(時には厳しく)見守り続ける、事務局長の伴野博美さんは言います。

0ペン知る ▶ 環境保護への道をあゆみ始めた子どもたち キッズISO14000プログラムは、子どもたちが、自分の行動が環境にどのような影響を与えているか、身の回りのどのようなことが環境に対する負荷となっているか、どうしたらそれを減らすことができるかなどを調べたり、インターネット経由で話し合ったりすることで、環境を良くしていこうという意識を育てるプログラムです。入門編〜上級編とあり、レベルに応じ、調べる範囲も自宅・地域・国際と広がっていきます。1月12日に行われた国際認定授与式では、▶

平成19年度の体力調査結果

平成19年度の体力調査が行われました。体力調査は、小学校3年生から中学校3年生を対象として、下の8種目について子どもたちの体力を測定し、全体的な傾向を見るものです。同時に体格と健康に関する調査も行っており、概要については次の通りとなっています。

杉並区立学校の子どもたちは？（都・国平均と比べて）



- 握力（筋力）**
小学校段階では、都・国平均並、若しくは上回っていますが、中学校段階になると、国・都平均を下回る結果となっています。
- 上体起こし（筋力・筋持久力）**
連続してできた回数を見ると、都平均との比較では上回っていますが、国平均と比べると若干、下回っています。
- 長座体前屈（柔軟性）**
年齢が上がるにつれ、都・国平均を下回る結果となっています。
- 反復横とび（敏捷性）**
全学年で都平均を上回っていますが、国平均との比較では下回っています。
- 20mシャトルラン・持久走（全身持久力）**
都平均を上回っている学年も見られますが、国平均を大きく下回る結果となっています。
- ボール投げ（筋パワー・巧緻性・投能力）**
都平均を上回っている学年が多いですが、国平均では全ての学年で下回っています。
- 立ち幅とび（筋パワー・跳能力）**
全ての学年で都平均を上回っている一方、国平均を下回る学年が多い結果となっています。
- 50m走（スピード走能力）**
多くの学年で、都・国平均を上回る結果となっています。
- 体格**
身長・体重・座高ともに都・国平均と比較し、全学年大きな差は見られません。しかし、小学校4年生から学年が上がるごとに体重は軽く、座高は低くなる傾向が見られます。

生活習慣等に関するアンケート調査

「学校が楽しい」「朝の目覚めがよい」などの項目について、小学校3年生から中学校3年生までを対象にアンケート調査を行いました。「とてもあてはまる」を4、「あてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を2、「まったくあてはまらない」を1として集計し、全体的な傾向（あてはまる度合いの平均値）を見ます。結果概要は次の通りです。

- 「運動・スポーツが好き」「朝の目覚めがよい」「体の調子がよい」の項目については、学年が上がるにつれ、あてはまる度合いが低くなる傾向にあります。
- 「時間を守って行動」「朝の目覚めがよい」の項目については、他の項目と比較し、あてはまる度合いが低い傾向にあります。
- 「毎日楽しく食事をとする」の項目については、低学年では男女にほとんど差が見られないものの、中学年から男女差が大きくなる傾向にあります。また、男女ともに、中学生になると平均値が低下する傾向にあります。

体力調査とアンケート調査を合わせて集計すると、次のような傾向が見られます。

- 「時間を守って行動できる」項目に肯定的に回答した児童・生徒（アンケートで4「とてもあてはまる」、3「あてはまる」と答えた児童・生徒）ほど、体力調査結果の総合得点が高い傾向にあります。
- 「毎日楽しく食事をとっている」項目に肯定的に回答した児童・生徒ほど、おおむね体力調査結果の総合得点が高い傾向にあります。

子どもたちが運動に親しむ機会を増やし、基本的な生活習慣や望ましい食習慣を確立させていくことが、体力向上につながっていきます。ご家庭でもご協力ください。

子どもの体力向上を目指して

体力づくり教室は、子どもたちが運動に親しみ、日常的に体を動かすきっかけとなるように、平成17年度から実施しています。今年度は、4回の開催で、延べ663名の小中学生が参加し、第1回「体力づくり教室」の親子ラグビー教室には、70名の保護者の方々が子どもたちと一緒にラグビーを楽しみました。体力づくり教室終了後のアンケートには、「楽しかった」「家でもやってみよう」「来年もまた参加したい」という感想がたくさん寄せられました。4回の開催の中から、平成19年10月21日（日）に杉並第十小学校で行われた体力づくり教室の様子をお伝えします。



サッカー教室
指導：日本サッカー協会公認インストラクター
小学校低学年、中学年、高学年別に、ボール遊びや簡単なゲームを楽しみました。インストラクターからは、ボールの扱い方やゲーム中の動きについての指導がありました。



陸上教室
指導：日本女子体育大学陸上部
スタートダッシュやスキップなどいろいろな運動を経験し、走る心地よさを味わいました。陸上教室の最後には、全員でリレーを行いました。



長縄記録会
進行：区立小中学校体力向上調査委員会
どのチームも互いに励まし合い、協力して記録に挑戦していました。応援の保護者の方々からも大きな声援が送られていました。

問合せ：済美教育センター

「意見を待ちしています」
「教育委員会からの発信」をお読みになった方からの「意見を募集しています。」「意見は郵送、または区公式ホームページ（生活ガイド）」
↓「子供、教育」↓「教育委員会からの発信」にお寄せください。

子どもの資質はさまざまである。勉強のよくなる子もいれば、スポーツ万能もいる。私は熱しやすく冷めやすい一発勝負型だったが、優秀な仲間はいいて粘り強かった。そのどれも活かすような教育ができるのが理想だが、四十人学級の公立の小中学校ではそれは神業である。

一般的にはクラスの上から三分の一ぐらいの子を対象にして教えると言われる。上の方の子は少し退屈かもしれないし、低空飛行組にはやや厳しいであろうが、やむをえない。成績のいい連中は勉強の仕方を心得ているから、ある程度は自分で努力して伸びていく。

問題はついていけないグループである。そちらは丁寧に補習して追いつかせなければならぬ。国際的な学力調査で毎回トップを維持しているフィンランドでは、一人の落ちこぼれも作らないことが底上げになっているばかりか、教師の側もとても教えやすいとのことである。アメリカでも、NO CHILD LEFT BEHIND 計画を進めている。

それには教室が少人数でなければならない。杉並区は四月から三十人程度学級制を採用するから、希望がもてる。

義務教育というのは、将来日本国民として生きていくのに必要な最低限の知識を与えるものである。日本国憲法第二十六条第二項では、子女に普通教育を受けさせる義務を保護者に負わせているが、ドイツでは子供自身に就学の義務を課している。私は、本来は国家に、一定の教育を習得させる責任、すなわちその義務があると考える。本来の意味での義務教育の課程を終えていなければ、ゆくゆく本人も苦労するが、国家も困る。したがって、落ちこぼれのままで中学を卒業させてはならないのである。

区立の小中学校が私立の学校に負けるのは悔しい。何とかして「杉並区では進学率で私立よりも有利です」と胸を張って言えるようにしたい。しかし、それにはまず、BOTTOM UPである。公教育をあずかる者としては当然これで頑張るしかない、やがて来る実りの時を信じて。

教育委員会からの発信

今年度のテーマは「これからの学校」。5人の教育委員が意見を発信します。

公教育と義務教育

教育委員 **大藏 碓之助**




▶初級編に取り組んだ区内の5、6年生の子どもたち206名がArTech国際委員会から認定を受けました。その中でも特に優れた取組みを行ったとして、地球をいたわる気持ちを常に忘れない二人の「あゆみ」さん（杉並第二小学校の6年生太田歩さん（写真左）、済美小学校の6年生村松歩美さん（写真右））が特別賞（東京都知事賞）を受賞しています。認定を受けられた皆さん、そして「あゆみ」さん、おめでとうございました！

幼稚園・保育園～小学校～中学校のつながりを

小学生は「児童」、中学生は「生徒」と言いますが、同じ子どもたちです。「児童」から「生徒」になるとき、子どもたちは急激に変化するのではなく、ゆるやかな連続性をもって成長します。そんな子どもたちに対する教育も同じく連続性を持っていなければならないはず。それは「園児」と「児童」の関係にも同じことが言えます。この園児～児童～生徒の学びがよりスムーズになるよう、区立の学校および区内の幼稚園・保育園では小中一貫教育、幼小連携教育に取り組んでいます。今回はその中から5校2園の取り組みを紹介します。

子どもの豊かな発達と滑らかな接続

下高井戸幼稚園・高井戸第三小学校研究発表会（2月15日）

下高井戸幼稚園と高井戸第三小学校の距離は、歩いて約10分。この離れた施設を園・校の教員同士が往復し、日常的に互いの教育活動を知ることから「幼小連携教育」は始まりました。それぞれの教員が時間を作り、話し合いを繰り返し「遊び・体育活動」と「交流活動」という2つの柱を設け、一緒に研究に取り組んできました。

「遊び・体育活動」では、主に「調整力」の伸長に焦点を当て、幼稚園での遊びから小学校低学年の体育へのつながりを考えた計画を作成し、実践してきました。「調整力」とは機能的に動きをコントロールする能力のことで、幼児期から児童期にかけて大きく伸びます。そこで、「調整力」を培う動きの多い「鬼遊び」「器械・器具を使った運動」「ボールを使った運動」を重点的に取り上げています。

また、「交流活動」では、園児と児童の交流活動の内容や方法について、お互いに恵があるという意味の「互恵性」を重視しながら、言葉によるコミュニケーションを豊かにしたり、相手を思いやったりする手だてを取り入れること、活動後の学習と生活につながるようにすることなどの工夫をしました。研究発表会の中でも、園児と児童が楽しみながら体をよく動かしたり、「ダンボールごま」を一緒に作って遊ぶなど、温かい雰囲気での交流の様子が見られました。

幼小連携教育を受けた園児たちは、小学校入学への安心感や期待が高まり、小学校体育と関連した遊びの体験からは、小学校での体育の授業の充実や体力向上が期待されます。小学校の児童も、幼小の交流をとおして身につけた優しさや思いやりの心で温かく新1年生を迎えられることでしょう。



「ダンボールごま」の作成風景。とっても上手に作られました！

小中の学びの連続性を求めて

新泉小学校・和泉小学校・和泉中学校研究発表会（2月8日）

- ①全ての学力の基礎となる「読解力」を育てるための基礎国語と、問題の解決を考えるための基礎的な計算技能の習得を目指す基礎算数・数学からなる「基礎の時間」
- ②問題の把握や解決を行うために必要な能力を様々なトレーニングを通して育てる「学ぶ力・生きる力をはぐくむ時間」
- ③小学校からの英語教育を通じ、実践的な英会話力と英語に限らない積極的なコミュニケーション能力の育成を目指す「英語科」

これら三つの柱を、小学校から中学校までの継続したカリキュラムで確実に身に付けさせること。この命題に新泉小学校・和泉小学校・和泉中学校の3校は取り組んできました。2月8日の公開授業で見られた真剣に考え、積極的に手を挙げ発言し、みんなと笑顔で話し合う児童・生徒の姿は、三つの柱によって培った能力が発揮されたものだと思います。

杉並区立学校初の小中一貫教育を行うにあたり、先生たちは様々な困難と向き合いました。例えば、小学校からの英語教育といっても、小学校の先生は英語を教えたことがありません。しかし「英語科」の方針は「Only English」（教えるほうも、教わるほうも全て英語で）なので先生も教室に入ってから授業が終わるまで「日本語は禁止」で頑張ってきました。「子どもが活躍する英語」のため、子どもたちとともにリズムに合わせてダンス（Dancinglish）をしながら、文字通り体で覚えていったのです。

また、研究発表会の中で頻繁に出てきた「小学校と中学校の文化の違い」という言葉に象徴されるように、今まで必ずしも小中が互いの教育を注視してきたわけではないので、まず小中の先生が互いを理解することから始めなければなりません。

しかし、これらの努力の甲斐あって、今では3校の先生たちは9年間の連続した教育のための共通理解を持ち、情報交換も盛んに行われているようです。

小中一貫教育を見越した研修、地域・家庭との連携等、課題はまだ残されていますが、今年度に杉並区初の「3校合同」の学校支援本部も設立されるなど、9年間を通し未来へのとびらを自信をもって開くことのできる子どもたちを育て、そのための3校の取り組みは、これからも続きます。



この子どもたちの笑顔が中学校卒業、そして未来にまで続きますように

ようこそ あたらしい1年生

高円寺東保育園と杉並第三小学校の交流（2月8日）



1年生が保育園児をお見送り。「今日は楽しかったよ！また一緒に遊ぼうね」と笑顔であいさつ。

杉並第三小学校では小学1年生と保育園年長の交流授業を行っています。1年生には、年下の子と接することで大きくなった自分を知り、優しさやいたわりの心が育つように、そして保育園児には、小学校に向くことで環境や雰囲気慣れ、入学時の不安や心配を取りのぞくことを目的にこの取り組みを始めました。

授業当日、まずは8つのグループに分かれて自己紹介。最初は、お互いにちょっぴり緊張していましたが、「こっちだよ」と1年生が保育園児の手を引き校内の案内に向かいます。早速、優しいお兄さんお姉さんぶりの発揮です。教室で2年生以上の児童が授業を受けている姿を、保育園児たちは「もうすぐ私たちもあの机で勉強をするんだ！」と期待に胸をふくらませ、真剣なまなざしでのぞいていました。

校内案内が終わった後は、体育館でいろいろな遊びに挑戦しました。この日のために「どんな遊びをしたら楽しんでくれるか」、1年生が自分たちでアイデアを出しあって何をするかを考えました。1年生から手作りメッセージカードのプレゼントもあり、保育園児は大喜び。1年生は人を楽しませるうれしさを、保育園児は1年生に対する憧れをそれぞれ実感でき、有意義な交流の時間となりました。

あたらしい1年生の入学まで約1ヶ月、また一緒に遊べる日がとても待ち遠しいですね。

もっと表彰おめでとう！

「ベン知る」欄の表彰者のほかに、優れた成績を修めた人、頑張った人がたくさんいます。杉並区教育委員会教職員表彰では学校教育に功績のあった先生や学校が表彰されました。また、杉並区学校文化栄誉表彰では、文化活動で優れた成績を修めた杉並区内の学校に通う児童・生徒の皆さんが受賞し、スポーツの分野で頑張った方々には、杉並区スポーツ栄誉章が贈られています。受賞（受章）された方々のお名前等は教育委員会のホームページでお知らせいたします。皆さん、おめでとうございます！

教育委員会の動き

19年12月～20年2月

【教育委員会開催状況】

- ・定例会 4回
- ・臨時会 3回
- ・議案 25件
- ・報告事項 23件

【主な案件】

- ◎は審議、○は報告事項
- ◎ 「杉並区教育ビジョン推進計画（平成20～22年度）案」について
- 和田中学校地域本部による私塾との連携について
- 平成20年度民間人校長の登用について
- 平成19年度全国学力・学習状況調査結果
- 30人程度学級の実施について

ベン知る



「ハミガキは はたらく歯への ありがとう」

健康な歯の大切さと感謝の気持ちが込められたこの標語を作ったのは、もちろん歯磨きの大好きな若杉小学校6年生梶本優子さん。杉並区学校歯科医会主催の「歯の衛生に関する作品募集」で金賞を受賞し、都に推薦。さらに都から日本歯科医師会主催の「歯・口の健康啓発標語コンクール」へと推薦されました。小学1年生～中学3年生対象のこの全国コンクールで都代表となり、表彰（代表賞）を受けたのは杉並区初の快挙です。梶本さん、おめでとうございます！！

●再生紙を使用しています